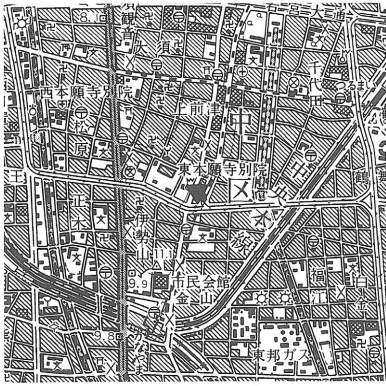


愛知・富士見町遺跡

- 1 所在地 愛知県名古屋市中区大井町
- 2 調査期間 二〇〇五年(平17)九月～一〇月
- 3 発掘機関 名古屋市教育委員会・名古屋見晴台考古資料館
- 4 調査担当者 深谷 淳・水野裕之
- 5 遺跡の種類 集落跡
- 6 遺跡の年代 弥生時代～近世・近代
- 7 遺跡及び木簡出土遺構の概要



(名古屋南部)

富士見町遺跡は、名古屋城と熱田神宮をむすぶ南北に細長い台地上に位置する。これまでの調査では、弥生時代から古代、中世にか

けての遺構が検出されている。

近世になると、当遺跡付

近では真宗大谷派名古屋別院(東別院)が元禄一五年(一七〇二)に名古屋御坊本御堂を完成させ、享保一七年(一七三二)に、藩主徳川宗春の振興策によって

「不二見遊廓」が開設されて以降は、店屋や宿屋などが集まる場所となったと思われる。

今回の調査では、東側の谷に面した斜面堆積層である遺物包含層から、縄文・弥生土器片と中世陶器片が出土したが、当該期の遺構は検出されなかった。

木簡は、土坑SK一から一点出土した。SK一は、明治時代後半以降の陶磁器類を含み、廃棄土坑と思われるが、規模は不明である。

8 木簡の積文・内容

(1) 「水」

図117×図8 061

曲物の柄杓の底板か小型の樽の蓋と思われるものに墨書されている。「水」専用の容器、用具であるとの意味であろう。

9 関係文献

名古屋教育委員会『富士見町遺跡第六次発掘調査報告書』(二〇〇六年)

(水野裕之(名古屋見晴台考古資料館))